

## 公財・在蘭邦人相談窓口10周年記念謝恩祝賀会 代表挨拶

在蘭日本国特命全権大使閣下・辻優様、在 Amsterdam 日本国名誉総領事・FransVan Lanschot 様、在蘭日本商工会議所会頭・玉井宏様、リトアニア大使閣下・Darius Semaška 様、来賓の皆様、そして公財・在蘭邦人相談窓口ボランティア及びご同伴の皆様、夏休み明けのご多忙な時期に、本日はこの様に多くの皆様方に、小会の10周年記念謝恩祝賀会へご出席を賜りまして、誠に有り難う御座います。

只今、ご紹介に預かりました代表の藤木きよでございます。

小会の10年の歳月はアツト言う間でもあり、また、長い道のりでも有りました。この間に、相談件数は600件を上回り、大小の会議40数回、ボランティアは27名が通過しました(現在は11名です)。10年の歩につきましては、プログラム後半でスライド Presentation「在蘭邦人相談窓口10周年記念」でご紹介致します。また、記念小雑誌「あゆみ Hop,Step,Jump」を発行致しましたので、最後にお持ち帰りの袋に入れ、冊子「オランダ暮らしのQ&A」、記念ペンと共にお配り致します。ここでは、私個人のオランダでの奉仕活動のきっかけなどを少し御話しさせていただきます。

Amstelveen の隣町 Uithoorn 市に住みまして来年で40年になります。日本の航空会社を1976年に退職し移り住みました当時は、人口2万人程の町に永住の日本人は2名でした。在蘭邦人数は増加傾向に有り、Uithoorn 市にも日本企業が拠点を置き始め、徐々に日本人が増えてゆきました。その頃のオランダ人は、日本人や日本事情に、日本人がオランダに抱くほどの好意的な関心や興味を持っていませんでした。

私の義理の両親は共にこの町の歯科医でした。離婚をして、近くで別々に歯科医院を営んでおりました。私の嫁いだ先は、これら多くの患者さん達の噂話にのる Uithoorn 市では比較的良く知られた家族でした。

やがて日本人が増え、隣近所に僅かな摩擦やオランダ人の日本への関心が芽生え始め、我家への電話や訪問が一つ二つと増えてゆきました。摩擦については、些細な勘違い・思い違い、言葉・表現の違い、意思の疎通が原因かと思われました。そこで自然発生的に始めは我家で、暫く後には持ち回りで、オランダ人宅、日本人宅でのお茶会が始まり、終には1983年発足の日蘭国際婦人会「おらんだ会」、会員75名、国籍15カ国迄に発展致しました。この会は26年間続き現在は閉会していますが、個々の小さな集まりが今ももたれています。この様にして始まりました奉仕活動は、在蘭邦人連絡会、公財・在蘭邦人相談窓口へと進展して参りました。近年は、相談窓口の活動を通し、役員レベルで、欧州日本人会連絡会(ENJA)や東京での海外日系人大会へ参加、世界の日本人会との交流を続けております。

ここに10周年を祝うに当りまして、共に歩んで参りました奉仕活動の仲間と日頃よりご協力を頂いています伴侶の皆様方へ、改めて感謝を述べたく存じます。また本日は、小会の細やかな歴史と経過を、ご来賓の皆様方の前で10年を経て初めて、お披露目をさせて頂ける機会を得ました事は大変に嬉しく、感謝の気持ちをお伝え致しまして、代表のご挨拶とさせていただきます。今後とも変らぬご支援を賜りますようどうぞ宜しくお願い申し上げます。ご清聴有り難うございました。

2015年8月29日、藤木きよ